

チェルノブイリ通信

2008年6月1日

No. 73

発行 NPO法人 チェルノブイリ医療支援ネットワーク 事務局
連絡先 福岡県遠賀郡水巻町下二西3-7-16(株)ウインドファーム内
TEL・FAX 093-203-5282
E-mail jimmu@cher9.to
URL <http://www.cher9.to/>
郵便振込口座 01770-1-65328
NPO法人 チェルノブイリ医療支援ネットワーク

チェルノブイリ医療支援ネットワークは、チェルノブイリ原発事故で被災した人々のために、
現地から求められる医療支援を行います。

この活動を通して、日本とベラルーシの人々の心と心のつながりを深めます。



現地スタッフ、リュドミラ・ウクラインカさんの愛娘、アンナちゃん

特集：チェルノブイリ原発事故から22年 事故の経過から医療支援の現状まで

連載第2回：
ベラルーシ、ミンスクのNGO「コンフィデンス」

「のぞみ21」より届いたSOS
経営困難な工房を支えて下さい！

乳ガン検診開始への挑戦
被災者を支え続けるということ

理事・事務局スタッフの紹介

事務局より主な活動報告 ほか

新連載：会員さん紹介コーナー

募金者のお名前とメッセージ

特集

チェルノブイリ原発事故から22年—— 事故の経過から医療支援の現状まで

1986年4月26日、チェルノブイリ原発事故が発生しました。

事故から22年にあたる今年の4月26日、「チェルノブイリ原発事故から22年～事故の経過から医療支援の現状まで～」と題した活動報告会を、福岡県朝倉市のピーポート甘木で開催しました。

報告会では、チェルノブイリ原発事故の発生から支援運動・九州の結成、変わる現地の状況や現在の医療支援の内容や課題について、写真やビデオを交えながら報告しました。報告内容を元に、あらためて事故からの22年を振り返ってみます。

(報告:理事 河上雅夫)



1986年4月30日付 西日本新聞

■原発事故と日本まで届いた放射能

日本に最初に事故の情報が入ったのは、26日未明に起きた事故から4日後、4月29日のことだった。翌日の朝刊では、各紙が一面トップでチェルノブイリ事故を大きく取り上げた。やがて8000キロを越えた日本にも放射能が届き、野菜や母乳から通常値以上の放射能が検出されたことが報道された。小さなわが子や自分たちの命を放射能の脅威から守ることの難しさを、誰もが肌身で感じるようになった。

事故当時、旧ソ連ではゴルバチョフ書記長がグラスノスチ（情報公開）という方針を打ち出していた。しかし事故発生が明らかになったのは、放射能が風に乗って広がり、スウェーデンで大気中から異常な放射能値が検出されたことと報道されたことが最初だった。事故後も情報公開は進まず、IAEA（国際原子力機関）の現地訪問後は、急速に現地からの情報が閉ざされることとなった。

■現地情報が入り始める

日本では、放射能汚染食品の輸入問題が起こり、88年に入ると四国電力伊方原発出力調整実験問題など、原発の

安全性に対する関心が急速に高まった。

当時まだ始まったばかりのパソコン通信（現在のインターネットの先駆けと言えるもの）を通して、現地の情報が直接私たちに入り始めたのはこの頃だった。その内容には、私たちの予想以上に現地住民が被害を受けているという深刻な実態と、世界中に対する支援要請がこぼれ出ている。

こうした現地からの情報を受けた有志の呼びかけにより、90年6月、チェルノブイリ医療支援ネットワークの前身である「チェルノブイリ支援運動・九州」が発足した。同じ頃、日本各地でもチェルノブイリ支援のための市民グループが相次いで産声をあげた。

■緊急支援とサナトリウムの運営

90年秋、放射能の影響を真っ先に受ける子どもたちの命を救おうと、多くの善意によって寄せられた寄付によって、粉ミルクや放射能測定器、簡単な医療支援物資を購入し、絵本などのクリスマスプレゼントと一緒に、現地へ最初の支援物資が届けられた。

当時の旧ソ連は、崩壊と独立が続く激動の時代で、社会混乱の最中だった。日本から送られた最初の支援物資



葉祥明さんと交流する子どもたち(左中)。一冊の作文集が各地で交流の輪を生んだ。95年。



スタディツアーでの1コマ。作文を書いたリュダの住むグルシコピツチ村にて。96年。

の一部には、輸送の途中で紛失したり、数ヶ月の間行方不明になったりしたものもあった。現地の実態調査と支援物資を直接届けることを目的に、91年から年1度の調査団派遣が始まった。

チェルノブイリ支援を始めた日本の他団体の間では当時、現地の子どもたちを保養のために日本に招待する形の支援が主流だった。しかし、陸続きで食文化や気候の似たヨーロッパの転地保養と違い、遠く日本での保養は、高い費用やわずかな人数しか受け入れられないこと、食事や気候の違いなどの課題もあった。

こういった状況を受け、私たちはベラルーシの現地NGOと共同で、首都

ミンスク郊外に子ども向け保養施設「サナトリウム・九州」の運営を開始した。92年から96年までの間に、300人近くの子どもたちがここで保養した。

■作文集出版と第1回スタディツアー

95年4月には、ベラルーシの子どもたちが書いた、チェルノブイリについての作文集を和訳し、その日本語版を出版した。

『私たちの涙で雪だるまが溶けた』子どもたちのチェルノブイリ』と題されたこの作文集には、約50編の作文と詩、作者の写真が収められている。作文にはベラルーシの子どもたちに降

現地医師たちと初代「雪だるま号」を囲んで。右から山田さん、日医大の清水先生。2000年。



汚染地域の拠点病院では、エコーなど精密医療機器や医療機材も不足していた。日本から贈られたポータブルエコー(左)と、緊張した表情でエコーを見ながらガン疑いのある甲状腺細胞を検査するアルツール医師(右)。ストーリン地区中央病院にて、2000年。

りかかった健康被害と、生活が一変した衝撃、ふるさとへの強い思いがつつられ、読む人の心を強く動かし、作文集は各地で大きな反響を呼び、いくつかの作品はテレビ・ラジオの番組の中でも朗読された。

同年8月には作文の4人の作者を日本に招待し、東京や九州各地で報告会や交流会を開催した。4人は、作文集にすてきな表紙と挿絵を提供して下さった人気イラストレーター、葉祥明さんにお会いしたり、日本各地で、作文集出版の際に編集ボランティアとして関わった日本の中高生たちと交流したりした。

翌96年には、編集や交流会で関わった日本の高校生たちを中心に、来日した作者の一人、リュドミラ・チュブチクさんの住むゴメリ州グルシコピツチ村を訪問するスタディツアーが企画さ

れた。ツアー参加者20名のうち、半分が14歳から20歳の若い世代だった。村をあげての歓迎や、森へのピクニック、美しい自然や陽気で親切な人びととの交流など忘れがたい経験を過ごした。その一方で、森のキノコから検出される高い放射能値や慢性的な体調不良を訴える人びと、粗末な村の医療施設など、それぞれがチェルノブイリの現実を目の当たりにした。

また当時、信州大学助教授の職を投げ打ち、ミンスク第一病院(国立甲状腺がんセンター)において無給で働いていた菅谷昭医師とお会いしたこと、ツアー参加者の多くに強い影響を与えた。

緊急支援から医療支援 そしてその先へ

■甲状腺ガンの急増が徐々に明らかに

91年末のソ連崩壊を経て、90年代半ば頃になると、社会混乱が少しずつ落ち着きを見せ始めた。同時にチェルノブイリ周辺の子どもたちの間で、甲状腺ガンが急増しているという情報が入り始めた。事故との因果関係が認められる以前のことだった。

その頃、広島甲状腺クリニックの武市宣雄医師や、医療通訳である山田英雄さんは、朝日新聞のチェルノブイリ支援プロジェクトや日本赤十字の救援活動に参加し、ウクライナやベラルーシでの医療支援に関わられていた。武市医師らが現地を目にしたのは、日本では考えられないほど数多くの子ども患者たちだった。

医療支援をするには、ある程度の費用と、向上心と高い志、熱意のある現地医療スタッフや医療機関とのつながりが必要となる。広島の医療専門家たちは、現地の医療現場とのつながりを探りながら、パートナーとして一緒に取り組んでくれる市民グループを探していた。

■専門家と市民、日本とベラルーシによる共同プロジェクト開始へ

同じ頃、私たち運営スタッフも、活動の次なる展開へ向けて検討を行っていた。サナトリウム・九州での保養プロジェクト期間終了が間近に迫り、すでに甲状腺ガンの増加は耳に届いていたものの、日本や現地の意欲ある専門家とのつながりがなく、一步を踏み出せないでいた。日本でもチェルノブイリ支援から世間の関心が急速に去り始めた時期でもあった。

「広島に甲状腺ガンを中心とした医療支援について詳しいチームがいるらしい」。関係者を通じて入ったそんな知らせを受け、広島から武市医師や山田さんを招き講演会を開いたのが96年のこと。現地事情に通じた二人が熱く語ったのは、小児甲状腺ガン検診を中心に据えつつ、現地医療関係者と共同で早期発見・治療のための医療システムを作るという構想だった。

現地医療機関と対等な関係で医療支援に取り組み、市民グループだけでは難しい現地専門家の人材育成まで視野に入れるという考えは、私たちの団体が目指した「必要な支援を必要とこ

ろへ」という考えにまさにぴったりだった。

「市民と専門家、日本とベラルーシ両側の関係者が連携して、甲状腺ガンの問題に取り組みよう」。こうして96年、緊急支援から本格的な医療支援へと、活動は大きな転機を迎えた。

■検診開始へ向けて

ベラルーシ側の共同チームスタッフとの間でまず検討したのは、プロジェクト対象地だった。現地の医療体制やガン症例数などあらゆる条件から検討し、最初のプロジェクト地として、ブレスト州南東部のストーリン地区を選定した。チェルノブイリからの距離が近く、すでに多くの小児甲状腺ガンの症例が報告されていた。ゴメリ州等と違い、国際的な医療支援がまだ入っていない地域だったことも選定理由のひとつだった。

首都ミンスクにある当時の放射線医学研究所（アキサコフシナ）、医学再教育センター内分泌教室、十番病院（内分泌科）、一番病院（外科）、汚染地側のストーリン地区中央病院、ブレスト州赤十字移動検診チームらにより、共同でプロジェクトに取り組みることになった。さらにベラルーシ赤十字や保健省が、支援物資の持ち込みや現地側の調整について協力してくれることとなった。

また、移動のための車両の必要性についても検討した。首都から400キ

ロ以上離れた汚染地へ、医療スタッフや医療支援物資を載せて走るための車である。97年、日本からの寄付によってベラルーシ赤十字へ検診車が贈呈され、作文「私たちの涙で雪だるまが溶けた」にちなみ、「雪だるま号」（スネガビーク号）と名づけられた。

■甲状腺ガン検診プロジェクトの歩み

日本とベラルーシの多くの方々の支援と協力により、1997年～2001年までの期間、ストーリン地区での検診を実施することができた。ほぼ毎年、夏と秋の2回の検診団を派遣し、甲状腺ガン検診のための医療技術を根付かせるための最初の階段を上った。特に後半では、秋の検診において医学シンポジウム合同開催を開始し、学びの場作りに着手した。

ストーリン地区でのモデルケース元に、2002年からは、州都ブレスト市の内分泌診療所に拠点を移した。支援のための活動費の減少から、やむなく年一度の派遣となったものの、ベラルーシ赤十字などの協力を得ながら、ブレスト市での中心的な医療スタッフ育成と、首都の病院との連携体制作りに取り組んでいる。

幼い頃に被曝した子どもたちは成長し、現在では20代、30代でのガン発症率が高くなっている。乳ガンや白血病、糖尿病などの増加とチェルノブイリの影響との関連性を指摘する声もある。そんな中で、2006年に開かれた

チェルノブイリ事故20年国際会議において、私たちと合同で検診をしているブレスト州赤十字移動検診チームの高い医療技術や活動が、国際赤十字連盟や海外のNGOから高い評価を受けたことは、国際レベルで支援活動の質を考える上で、貴重な機会となった。

■支援の輪を広げるために

事故直後に比べて現地情報が格段によく分かるようになり、支援活動は充実の方向へと向かいつつある。私たちは日本各地での写真パネル展の開催やバザー等への出店、会報やリーフレットを通じてチェルノブイリ支援を呼びかけてきた。

しかし一方で、医療支援費の漸減に表されるように、チェルノブイリ事故から時間が過ぎるのに伴い、多くの人の心から「チェルノブイリ」の記憶が薄れつつあるのも現実である。

「もう終わったこと」として、より多くの人に伝えるためにと、ボランティアの方々や会員さん、運営スタッフで知恵を絞り、いくつかの新しい試みを始めています。

その一つとして、毎年一度開催しているチャリティヘアサロン『スネガビーク』がある。プロの美容師にヘアカットしてもらい、その収益をチェルノブイリ支援にあてるといいうもので、2004年開催以来、毎年好評をいただいている。

「活動18年目を迎えて」
「チェルノブイリ支援運動・九州」の活動が始まって、もうすぐ18年。本の心から「チェルノブイリ」の記憶が薄れつつあるのも現実である。

「活動18年目を迎えて」
「チェルノブイリ支援運動・九州」の活動が始まって、もうすぐ18年。本の心から「チェルノブイリ」の記憶が薄れつつあるのも現実である。

格的な医療支援を始めてからは、12年目を迎えようとしている。昨年はNPO法人の認証を受け、さらに多くの方を巻き込んで活動を展開したいという気持ちを含めて、団体名を「チェルノブイリ医療支援ネットワーク」と改めた。

私たちのような小さな市民運動が医療支援を行うことにはいろいろと難しい部分がある。その中で、これだけの成果を上げられたことは、他の団体にも参考になることがあるのではないだろうか。また、私たちとしても、これまでの活動の成果をきちんとまとめる必要があるだろう。

国際的にも、特に私たちのような医療支援に取り組むグループは少なく、被災地からも高い期待が寄せられている。チェルノブイリ事故からの22年は、

「まだ」22年でしかない。ヒロシマやナガサキで、原爆後60数年たっても多くの病気が報告されているように、チェルノブイリでも今後も長く影響が続いていくと言われている。

チャリティヘアサロンなどのイベントの場では、若いボランティアや運営スタッフ、学生の皆さんが一生懸命に頑張る姿を目にし、新鮮な感動を受ける。チェルノブイリ後に生まれた中高生が、募金活動や写真展を企画して下さっている。

新しい世代が加わることで、18年という長い間支援を継続できた。皆さんとともに、新たな気持ちでこれからもチェルノブイリ医療支援を続けていきたい。

(4月26日報告会での内容を元に再編集)

- 1986年 4月26日午前1時23分
チェルノブイリ原発4号炉が実験中に暴走、爆発
4月29日よりヨーロッパ各地で放射能検出
5月4日 日本各地で放射能検出
- 11月 「石棺」(コンクリート製の覆い)完成
- 1987年 5月 ヨーロッパからの輸入食品から放射能検出
- 1988年 2月 四国電力伊方原発で出力調整実験
4月 輸入食品の放射能検査強化
- 1989年 1月 福島第二原発3号炉ポンプ事故
11月 ベルリンの壁崩壊
- 1990年 6月28日 チェルノブイリ支援運動・九州結成
10月 東西ドイツ統一
12月 支援運動・最初の支援物資発送
- 1991年 1月 湾岸戦争勃発
2月 関西電力美浜原発事故
6月 支援運動・第1次調査団派遣
12月 ソ連崩壊
- 1992年 6月 地球環境サミット
12月 第2次調査団派遣、「サナトリウム・九州」オープン
- 1993年 7月 第3次調査団
9月 民族アンサンブル「パレスカヤ・ソーラチカ」来日
- 1994年 春 ベラルーシで「私たちのチェルノブイリ」作文コンクール
6月 第4次調査団
7月 ベラルーシより小児科医研修受入れ
9月 第5次調査団
- 1995年 1月 阪神・淡路大震災
4月 作文集「私たちの涙で雪だるまが溶けた」出版
6月 作文集の作者来日、各地で交流会開催
12月 「もんじゅ」ナトリウム火災事故
- 1996年 4月 第6次調査団
8月 スタディツアー
秋 「サナトリウム・九州」閉鎖
12月 ブイソフ親子来日、報告会開催
- 1997年 1月 第7次調査団
4月 リサ医師来日、「移動検診」開始キャンペーン
7月 ストーリン地区第1回移動検診
11月 ストーリン地区第2回移動検診
- 1998年 7月 ストーリン地区第3回移動検診
10月 ストーリン地区第4回移動検診
- 1999年 6月 ストーリン地区第5回移動検診
8月 スタディツアー
11月 ストーリン地区第6回移動検診
- 2000年 6月 ストーリン地区第7回移動検診
7月 事務所を水巻町に移転
11月 ストーリン地区第8回移動検診
- 2001年 4月 リューダさん、ナターシャさん来日
6月 ストーリン地区第9回移動検診
10月 第16次調査団派遣
- 2002年 7月 プレスト第1回移動検診
12月 プレスト第2回移動検診
- 2003年 7月 プレスト第3回移動検診
- 2004年 5月 チャリティヘアサロン2004
8月 スタディツアー
10月 プレスト第4回移動検診
- 2005年 8月 スタディツアー
10月 チャリティヘアサロン2005
11月 プレスト第5回移動検診
- 2006年 4月 チェルノブイリ20年国際会議
10月 チャリティヘアサロン2006
11月 プレスト第6回移動検診
- 2007年 1月 NPO法人の認証を受ける
チェルノブイリ医療支援ネットワークに名称変更
2月 日本医科大で甲状腺内視鏡手術
10月 チャリティヘアサロン2007
10月 プレスト第7回移動検診



街頭募金の様子。

ベラルーシ、ミンスクのNGO「コンフィデンス」

第2回 ～団体設立の意外なきっかけと市民の生活事情～

ベラルーシの首都ミンスク市にある現地NGO「CONFIDENCE(コンフィデンス)」は、健康に重点を置き、貧困層の母子のケアを行う市民団体です。チェルノブイリ医療支援ネットワークは2001年より協力体制をとり、支援を続けています。

2007年秋に行った、イリーナ・アリノビッチ代表へのインタビュー、連載第2回目はコンフィデンス設立の意外なきっかけと、ミンスク市民の生活事情についてお届けします。
(聞き手:津島朋憲)

代表のイリーナさんと、活動の一つである子ども向け教育プロジェクト。



——イリーナさんは、どのようにしてこの活動に関わり始めたのですか？

私が作った団体です(笑)。1998年に設立しました。

娘のユーリヤは血小板が少なく、出血が止まらない病気なのですが、私ひとりですべて育てなければなりません。誰も助けがないとき、ドイツから薬や食料品などの支援があり、ボランティアに助けられました。

——なぜドイツからの支援があったのですか？

娘がドイツでのチェルノブイリプログラムに参加していた時に、道路で

大金が入った財布を拾い、警察に届けました。すると、非常に正直な娘さんだから、お母さんもきつと正直だろうと(笑)、支援が始まったのです。ドイツの支援団体がパートナーを探しているの、パートナーになりませんかということでした。それで支援組織を作るために奔走したのが設立のきっかけです。

今、娘は26歳です。法律家、教育家の免許を持っています。病気は今のところ安定していますが、結婚して出産すれば出血が多いでしょう。それがとても心配です。

——ミンスクの人々の生活レベルは上がっているように見えます。日本では経済格差が広がっていますが、ここでもそうですか？

はい。乗っている車が最新モデルかそうでないかを見れば分かります。中間層がなくなっています。食料品にしても物価はほとんど世界水準まで上がっているのに、人々の給料は変わっていません。

——子どものいる家庭での平均月収はどれくらいですか？

ミンスクで80ドルちょっとくらいです。しかしアパートの家賃だけでも同じくらいかかりますから、冬場にな

ると光熱費が増え、給料のほとんどがなくなってしまう。

——低所得の家庭には、たとえば薬物依存症など、特別の理由がありますか？

私たちの大学でも、特別な役職ではない平社員の最低給料はこれくらい(80ドル程度)です。アルコール依存症などの特別な状況ではなく、普通に働いている人でこれくらいなのです。

——食事の価格も高くなっています。が、食事のカロリーそのものも高いですね。こちらの人は普通にこういう食事をとっているのですか？

この国は日本とくらべれば寒いですが、ここ2年は暖冬ですが、本来ならば今(10月末)から4月まで雪の季節です。一般的にカロリーの高いものを食べなければなりません。

この国は内陸ですから魚もありませんし、ヨードを含んだ海産物も当然ありません。そういう面では栄養バランスがとれていない面があります。

チェルノブイリ事故による健康の問題も、ヨードなどの栄養バランスの問題が背景にあります。

☆☆☆

次号では他国からコンフィデンスに送られている支援の内容や、当団体が送っている支援金の使途などについてお伝えします。お楽しみに！

のぞみ21雑貨人気商品
(2008年1~4月調べ)

BEST☆10

1 マトリョーシカ
5ピース入 ¥3000
不動の第一位!



2 マトリョーシカ
5ピース入無地
在庫切れ。次回入荷をお楽しみに!

3 麻のしおり ¥500
変わらぬ人気商品。いろいろな刺繍柄があり。

4 マトリョーシカ
ストラップ ¥750
3人姉妹が並んでいます♪



5 お箸&箸袋セット
(在庫切れ)
お箸単品¥600のみ在庫有。

6 マグネット(バラライカ) ¥500
ギターに似た民族楽器がモチーフ。



7 マトリョーシカキーホルダー
¥550
ピン・グリーン・ブルーの3種類。
バザーの人気商品です。



8 ボックスティッシュケース
¥1200
伝統模様の手刺繍入り。
在庫わずか。



9 麻のなべつかみ ¥650
野の花や伝統模様、蝶々などの
手刺繍入り。

10 箸置き(マトリョーシカ) ¥500
青と赤の2色。かわいいです。



新着商品も登場! バザーやイベントなどでの販売、
卸などお問合せ下さい。(以下は一部です)



つまようじ入れ(キノコ)
価格:各500円



ミトン
30cmx17cm
価格:850円

ガラガラ
身長11cm
価格:2500円(在庫わずか)
揺らすと音が鳴ります。



ブックカバー
17x12cm
価格:900円



マグネット(ハリネズミ)
3x3cm
価格:500円

「のぞみ21」より届いたSOS
経営困難な工房を
支えて下さい!

ベラルーシのゴメリ市にある福祉工房「のぞみ21」は、チェルノブイリ原発事故で被災した若者や、障がいを持つ青年たちの経済的、社会的自立のための小さな工房です。

昨年秋のベラルーシ訪問で、工房の経営がこれまで以上に大変厳しくなっていることがわかりました。安い工業製品が市場にあふれ、工房の手作り製品は地元では売れにくくなり、物価の上昇で雑貨の材料代がさらに必要になりました。

「のぞみ21」では、収入のほとんどを、



以前の工房の様子

状です。家賃が支払えないため、工房の作業スペースを閉鎖し、現在スタッフはそれぞれの自宅で製作しなければならなくなりました。

昨年より「のぞみ21」では、支援金や

日本の会員の皆様よりいただいた「のぞみ21」カンパと、日本向け商品の売上でまかなっています。

商品代金を食料品に替え、スタッフが暮らす17家庭に支給する仕組みを始めました。現金で支払うよりも、食料品という各家庭の必需品を支給することができるといえます。

現地での経済的自立がより難しくなっている今、私達は、彼らの生活を守るためにも、より多くの「のぞみ21」雑貨を販売していきたいと考えています。

彼らが心を込め、丁寧に手作りした作品をご覧いただき、ぜひお買い求めください。

「のぞみ21」商品は事務局、またはこちらのホームページからご注文下さい。常設店情報は10ページをご参照下さい。

ベラルーシ料理と民芸品の部屋
<http://www.cher9.to/mingei/mingei.html>

乳ガン検診開始への挑戦

現地の要望に医療支援を通してどう応えられるか

理事 寺嶋 悠

今年の秋に予定している検診団派遣では、通常の甲状腺ガン検診に加えて、新たに乳ガン検診の試験的实施を予定している。

チエルノブイリ事故が起きてから22年。ベラルーシには、事故による放射性物質のおよそ9割が降り注いだと言われる。国土の3割が高濃度、低濃度の放射能汚染地となり、外部被曝以外にも、長期的に低濃度汚染地に住み続けることによる内部被曝の問題がある。

■甲状腺ガンと乳ガン

放射能(放射性物質)のひとつ、ヨウ素131は甲状腺に蓄積されやすい。甲状腺



2007年秋の検診にて。現在の体調や薬の量、家族の健康など患者さんの相談も多い。

腺は、脳下垂体と互いに密接に関係して、成長ホルモンや生殖ホルモンなど、成長や生きるために不可欠な「甲状腺ホルモン」を作っている。甲状腺に異常があると体のあらゆる部分に影響する。ホルモンが多すぎても少なすぎても体調を崩してしまう。早期に発見すれば、甲状腺ガンのために即命を落とす危険性はない。しかし、治療が遅れると、ガンが肺や骨に転移する可能性がある。

乳ガンは、日本では女性に最も多いガンである。女性の20人に1人が乳ガンを経験していると言われる。数少ない「自分で発見できる」ガンでもあり、ピンクリボン運動など、近年は乳ガン検診の必要性や乳ガンの触診による自己診断の必要性や動きが広がっている。甲状腺と同じく、乳ガンも脳下垂体やホルモンと深く関係している。甲状腺ガンと同じように、発見が遅れば、肺や肝臓などへの転移の危険があり、早期発見・早期治療が求められる。

■秋の乳ガン検診実施へ向けて

以前から、プレストの医療スタッフの間では乳ガン検診の実施を求める声があった。プレスト州立病院や内分泌診療所には、検診のために必要な主な機材がそろい始

め、昨年秋の訪問でも、日本の専門家と共に検診実施の具体的なイメージについて打合せを行った。

今年秋の乳ガン検診実施へ向けた調査と関係者打合せのため、医療コーディネーターの山田さんを通して、電話やFAXでの調整や打合せを現在進めている。正式な実施ではないが、試験的实施へ向けて、現地と日本側の期待が寄せられている。

■医療を通じたチエルノブイリ支援

チエルノブイリ医療支援ネットワークは、被災者を精神的・物質的に支援することを目的としている。チエルノブイリ支援の場合、現地政府の認可した団体でなければ、医療物資の持ち込みや入国が難しいという現状がある。日本のイデオロギーを現地に持ち込むのではなく、今は、被災地の要望に対して医療支援を通してどう応えていけるかが重要な課題である。

8000キロ離れた、文化も言葉も社会背景も違う国での活動は、常に多くの困難や課題が伴う。そんな中、「チエルノブイリ事故で被災した数百万人の命を救いたい」「現地で必要とされている支援を届けたい」「不安を抱えたまま生活を続けている被災者の支えになりたい」と

いう、寄付を寄せて下さる皆さんの思いを現地被災者へとつなぐのが、運営スタッフの役目であり団体のミッション(使命)であると考える。

■被災者の命を支える

私たちの現地スタッフであるリュドミラ・ウクランカが、以前、北九州市立石峯中学校の生徒から届いたメッセージやプレゼントを受け取った際、「私たちが襲った悲劇はあまりに大きく、誰か私たちのことを思ってくれたい人がいないと乗り越えることができないのです。」と話していたことを思い出す。事故当時子どもだった世代は今、結婚、妊娠、出産という大切な時期を迎えている。私たちの活動も、彼女と同じようなチエルノブイリに生きる誰かの希望となり、誰かの支えとなれるとしたら、どんなにすばらしいだろうか。

3歩前進できたかと思えば2歩後退する。しかし、1歩は確実に前に進んでいる——その繰り返しながら「今」がある。課題を乗り越えながら「今」がある。

乳ガン検診への広がりという新たな局面を、会員の皆さんと成功させたいと強く願う。引き続き、ともに被災者の命を支え続けたい。

こんな顔ぶれで、皆さんと現地をつないでいます 理事・事務局スタッフの紹介

皆さまからお預かりした大切な募金を、現地被災者への支援へとつなげるために、団体の運営を担わせていただいている理事と事務局スタッフの顔ぶれを紹介します。どうぞよろしくお祈りします！

河上雅夫

(かわかみ・まさお)



パソコン通信で現地からの被害が伝えられてきて、何とかしなければとの思いから運動を始めました。手探りの状態から、現在では多くの専門家との協力体制の医療支援を行うまでになりました。長年、関東・北陸で暮らしていましたが、地元での活動を再開しました。

矢野宏和

(やの・ひろかず)



こんにちは。矢野宏和です。1996年の現地へのスタディツアーをきっかけに、チェルノブイリへの支援活動に関わるようになりました。ベラルーシの人々との出逢いを通して、いろいろと学ぶ事が多く、特に土に根ざした生活スタイルは私の人生に強い影響を与えてくれています。

津島朋憲

(つしま・ともり)



不登校団体の会報印刷にチェルノブイリ支援運動・九州の事務所に来ていたのがきっかけです。「日本では常識、現地では非常識」といったことを多々感じる日々ですが、差が明らかになっていくなかで日本の国際化が進むのだと感じています。仕事は「システムトレード塾」の代表です。

吉本美貴

(よしもと・みき)



きっかけは、6年前にふと思い立って始めたボランティアでした。その後、事務局員を経て、現在は理事として参加しています。6年前のこの団体との出会いは、本当に幸運な出来事でした。わたしにとって、ここは社会貢献できる場所であり、自己成長・自己実現の場にもなっているからです。

小山浩一

(おやま・こういち)



大分県日田市の小学校に勤めています。チェルノブイリ事故のこと、ベラルーシの人々のことを未来を担う子ども達に伝える活動をしています。他の学校へもどこにでも出かけて伝えたいと思います。ぜひ呼んで下さい。

谷口 恵

(たにくち・めぐみ)



大学卒業後、関西で参加していたNGO活動のつながりでこの活動を知り、2000～2005年まで事務局として活動に関わりました。「かんじんなことは目には見えない」、大好きな本『星の王子さま』にある言葉です。活動で知った「目に見えない」ものは「希望」。子どもたちと一緒に見つけたいです。

寺嶋 悠

(てらしま・ゆう)



中高生ボランティア募集の新聞記事がきっかけで活動を知り、気づけば三十路突入。正に光陰矢の如し。本業はまちづくりや情報発信をお手伝いする仕事をしています。同世代が気負いなく支援の輪に参加できるしくみづくりにも今後取り組んでいけたらと思います。福津市在住。

山口英文

(やまぐち・ひでふみ)



私はロシア語が出来るという事が始まりでした。12年前にスタディツアーにロシア語通訳として同行してからの関わりです。矢野さん・河上さん・寺嶋さんは最初に知り合い、以来関わってきました。ベラルーシでのあだ名は「ヒョードル」。大分県中津市在住で、趣味は剣道と水泳です。

事務局スタッフ

頼れる縁の下の力持ち！

三島さとこ

(みしま・さとこ)

尾崎由美

(おざき・ゆみ)



学生時代のアルバイトをきっかけに事務局スタッフになりました。業務を通じてたくさんのお会いがあり、学びもあります。今後ともよろしくお祈りいたします。(三島さとこ)

NGOの仕事に興味がありました。事務局に入ってから1年半、いろいろな経験をさせていただいています。(尾崎由美)

和田幸策

(わた・こうさく)



皆さん、はじめまして。新しく理事になりました和田幸策と申します。私が初めて「チェルノブイリ医療支援ネットワーク」を知ったのはつい2年前のことです。以前からボランティア活動に興味があったのでサイトを見て参加することにしました。当時、チェルノブイリ原発事故から20年ということで報道番組等の特集を見た影響もあると思います。自分に出来ることがあるなら、まず行動してみようとの思いが出発点でした。これからもよろしくお祈りいたします。

動画での検診風景も紹介中

ホームページの紹介

チェルノブイリ医療支援ネットワークのホームページには、イベント案内やこれまでの活動報告、通信バックナンバー、事務局スタッフ日記、のぞみ21商品やベラルーシ料理レシピなどを紹介しています。ぜひ一度ごらん下さい♪
<http://www.cher9.to/>

雑貨はこちらでも購入できます

のぞみ21商品常設店

- こんがり舎 (福岡県前原市)
TEL:092-322-4835
<http://kongari.oops.jp/>
- shop via-Berlin (長崎市)
TEL:095-824-3003
<http://www.via-berlin.jp/>
- Paty Kobe (神戸市)
TEL:078-331-8839
<http://paty-zakka.com/>

秋の訪問の際に届けます!

のぞみ21運営カンパ

ベラルーシの福祉工房「のぞみ21」の運営カンパを受付けています。ぜひご支援をお願いします。

郵便振込口座/01770-1-65328
口座名/NPO法人 チェルノブイリ医療支援ネットワーク
※振込用紙の備考欄に「のぞみ21カンパ」とご明記ください。

おいしいトリピーターが続出♪

支援コーヒー

チェルノブイリ支援コーヒー・紅茶を取り扱っています。有機無農薬コーヒー(ブラジル・ジャカラダ農場産)は200g¥775、有機無農薬紅茶(南インド産)は100g¥485です。カタログが必要な方は、事務局までお知らせ下さい。のぞみ21商品等と合わせて計¥5000以上ご注文の場合は送料無料で。

ほとんどのコンビニでご利用できます

コンビニ募金

セブンイレブン、ローソン、ファミリーマート、ampm、ポプラなどほとんどのコンビニで、時間に関係なく利用できます。コンビニ振込をご希望されるは事務局までご連絡ください。3ヶ月有効の専用振込用紙を、お好きな金額、枚数分お送りします。事務局/TEL093-203-5282

通販支払の一部が指定NGOに寄付されるほか、クリック募金もあります。

イーココロ!

会員登録(無料)をし、ネットショッピングや資料請求をすると募金ポイントがたまり、指定のNGOに寄付できる仕組み。会員登録の際に「チェルノブイリ医療支援ネットワーク」を募金先のNGOに指定して、ご登録・ご利用ください♪
詳細は <http://www.ekokoro.jp/>

チェルノブイリ医療支援ネットワーク 主な活動報告(2008年2~4月)

日々の活動の様子は、ホームページの「事務局スタッフブログ」でぜひご覧下さい。<http://www.cher9.to/>

◆2月16日(土)国際理解講座「マネーの虎」

北九州市で開催されたこの講座は、5つの国際協力団体の活動内容を聞き、参加者が支援したいと思う団体に投票するというものです。10分間のプレゼンテーションを行い、投票いただいた方からは、「現地の医師を育成している点が評価できる」といったご意見がありました。

◆2月16日(土)二〇〇八年度通常総会

福岡市内にて総会を開催し、昨年度の活動報告及び今年度の活動計画について協議しました。今年度は乳ガン検診プロジェクトの準備やウェブ関係の充実など、活動をさらに充実させていきたいです。

◆2月23日(土)福岡市立愛宕浜小学校のフリーマーケットに参加

他のNGO団体からの紹介で、初めての参加でした。6年生を中心に企画されていて、生徒の皆さんは準備も運営もとても一所懸命でした。また生徒さんによる発表のコーナーもあり、イベントに対する姿勢やアピールの方法など、事務局としても、とても勉強になりました。

◆3月15日(土)ベラルーシ料理教室

2月に引き続き北九州市にて料理教室を開催しました。ピーツやサワークリームなど、あまり見慣れない食材の調理に皆さん興味津々。できあがったお料理をおいしくいただきながら、講師をお願いしたユーラさんにベラルーシでの生活や日本と違うことについてなど、たくさんのご話を教えていただきました。

◆4月19日(土)福岡YWCA春のチャリティーバザー

福祉工房「のぞみ21」の雑貨を中心に販売や活動紹介を行いました。最近はこちらのトリョーシカやリネン素材のものが流行っているようで、好評でした。商品に対するコメントもいただき、ベラルーシ、チェルノブイリについても関心を持っていただけました。

◆4月19日(土)ギャラリーよしきにて

飯塚市の「ギャラリーよしき」で毎月行われている勉強&交流会で、約40名の方にベラルーシの現状や文化、検診活動の様子などお話ししました。たくさんの方の質問をいただき、いらっしやうた方々の関心の高さに驚きました。

◆4月20日(日)アースデイ2008 in 赤村

連日のイベントでしたが、ボランティアさんなどの協力もあり、こちらも大盛況でした。ブースでは「のぞみ21」雑貨の販売とともに、被災地の様子や団体の活動について紹介しました。こうしたイベントでは、訪れてくださった会員さんや一般の人々と接し、声を聞けることが何よりも楽しみです。

◆4月26日(土)チェルノブイリ活動報告会

チェルノブイリ原発事故から22年目を迎えたこの日、福岡県朝倉市にて活動報告会を行いました。会員さんや地元の方など多くの方々に参加していただきました。詳しくは別ページの報告をご覧ください。

私も応援しています！
会員さん
紹介コーナー

Vol.1

このコーナーでは、チエルノブイリを支援して下さっている会員の皆さまより、医療支援活動への思いや現地へのメッセージをお聞かせいただきます。

取材／寺嶋

本日の会員さん

池田 阿里さん

<福岡県久留米市>



2歳になる息子のたまきくんと一緒に。

親子で考えたい、チエルノブイリのこと。

最初に活動のことを知ったのは、たしか2000年頃だったと思います。当時身軽だった私も今では2歳と7歳の子どもの母親です。環境問題や原発について少しでも分かるようになりたいのと、何か善い事をしたくと漠然と思っていた時、チエルノブイリ支援の事を知り支援コーヒーを購入入ささせていただいたのがきっかけです。

4月に近くの甘木で活動報告会が開かれたのでうれしく、家族を引き連れて参加させていただきました。スタッフの河上さんの報告では、原発事故の被害が今もなお続いていることを知り、事故を知らない若いお母さんたちや、わが子も含めた多くの子どもたちに知らせて行かなければと痛感しました。また22年もの間、甲状腺ガン検診ができる医師の育成など、コップと取り組んできた活動が徐々に成果を上げ、さらに展開しているとのことでした。

現在は地域の子育てサークルで活動しています。お母さんたちと昨年、地球環境

について「できることから始めよう」とチェック表を作成しました。自販機を使わず水筒を持ち歩く、マイバッグ・マイ箸持参、白熱球を蛍光灯に替える、自転車に乗る、プラスチック用品を買わないなど、誰でもちよつと気をつけられればできることです。こういった環境問題に関心を持ったお母さんたちに、どうやったら原発やチエルノブイリの事にまで関心を持ってもらえるかが、今の私の課題です。

今は子育て中でお金もかかりますし(笑)、ひとりですぐに募金をすることはできません。だから積極的に情報を得たり、例えばのぞみ21グッズをバザーで紹介したり、支援コーヒーを飲んだりしながらお母さんたちに話を伝えていけたらと思います。最近の若いお母さん(25歳ぐらい)はチエルノブイリ事故を知りません。当時まだ2、3歳だったから当然かもしれませんが、月日の流れの速さに驚きを隠せませんでした。

今年5月、久留米で開かれたイベント

で、地雷撤去のNGOによる展示を見た上の子が、自分から募金をしようと言ってくれました。さらさらした目をしている子どもたちは何か改めて考えさせられました。せつかくご縁があつたチエルノブイリについても、親子で一緒に考えてゆけたらいいなあと思っています。

玄海原発もここから近く、最近では六ヶ所村や四川大地震による放射能漏れのニュースも気になります。放射能は無臭無臭の為、すぐには被害が分かりにくいのですが、何十年もかけて確実に人体を蝕んでいくことを思えば、小さなお子さんを抱えたお母さんたちにとつても、チエルノブイリとは本当は身近で深刻な問題なのではないでしょうか。

今後は、サークルのお母さんたちにとどまらず多く周りの人たちを巻き込んで支援を続けてゆきたいと思っています。一緒に行動を起こしてくれる仲間作りが今後の私の課題となりそうです。(談)

事務局が移転します
新事務所は古賀市へ

この度、事務局を遠賀郡水巻町から古賀市へと移すことになりました。2001年に、北九州市八幡東区より移転して以来、日本と現地を結ぶ事務機能の拠点として、また多くのボランティアさんとスタッフとの交流の場として多くの思い出の詰まった場所です。長きに渡り、廉価で会社の二室をお貸し下さった(株)ウインドファームのご厚意に、この場を借りて御礼申し上げます。

新事務所は、JR古賀駅より徒歩5分の場所です。6月半ばより引越し準備を進め7月には完全に移転予定です。当分の間、旧連絡先でも郵便物や電話は転送されます。新天地でのさらなる活動の充実にご期待下さい！

臨時総会ののご案内

理事長交代と事務局移転(右記)に伴い、臨時総会を開催します。
日時／2008年6月28日(土)
午後13時30分より
場所／福岡市人権啓発センター
ココロセンター

(福岡市博多区下川端町3-1
博多リブレインオフィス10F)

※正会員の申込手続きをされた方は出欠をお知らせ下さい。

たくさん募金をありがとうございました。

(敬称略、順不同)

吾郷成子 浅井由美子 浅古加代子 阿部リエ 荒瀧美由紀 有末あけみ あるがまま舎・吉岡正美 粟屋千恵子 石橋恵美子 石橋啓子 石橋芳子 磯道綾子 伊藤和夫 稲田照子 稲月道子 稲吉清子 井上輝美 今井涼 岩川靖子 岩口香織 内田明子 江口英顕・恭子 江口由美 榎本みつ枝 大分カルメル会修道院 大久保伸子 大崎知恵 大園広子 大田澄子 大塚厚 大中百合 大場満 緒方英子 甲斐純子 角場純子 梶原美智子 片岡直樹 片岡八重子 勝連夕子 金山涼子 上柿元啓子 上條千栄 紙森優子 加茂康子 飯屋園今日花・昂介・桃・幾代 河上雅夫 川崎君子 川崎巳代治・幸子 川村公子 神田香織 泉の鯉 木村みさ子 久保山彬子 汲地康子 栗田光子 黒岩英子 黒川典子 鍛崎真美子 古賀尚子 後藤宇奈子 小蓬原千津留 小宮田鶴子 財津悠子 齊藤美代子 堺和美 酒井淑江 坂口馨子 佐々木郁江 佐々木孟 佐竹早苗 佐藤江江 佐藤進 佐藤照子 サトウ矯正歯科クリニック 里見照子 佐村律子 渋谷けい子 島田美恵子 庄籠道子 白濱豊 進藤輝幸 杉本久三子 清流裕子 添田福美 曾我正 彦・則子 園田みどり 高田正世 高藤富美子 高柳俊哉 武重登美子 竹田恵子 武田孝子 田中京子 谷口美江 珍部千鳥 津田瑛子 土持秀男・由利子・朱加 坪川裕子 鶴田光子 天賀京子 遠山祥子 得能美樹 富永勤子 富永隆史 友景忍 永江之子 長岡幸子 中川洋慶 永野沙智子 長棟かおる 中村加代子 中村洋子 中本治嘉子 西村友子 西山千代乃 納富育代 野曾原和恵 橋本京子 波多江淑子 林隆子 廣澤元彦 廣政貴子 深堀ミチ子 福本勲子 福山知恵子 藤原直子 古川恵子 坂保尚子 本田スミ子 前田晶子 前田育子 前田靖子 前田・渡辺・中西・沖 榊田千絵 松尾智恵子 松木裕之 松下京松永庸子 真鍋英夫・恵子 丸田裕子 丸山小より 丸山千絵 水本敬子 三苦美奈子 宮元寿子・美帆 宮本美智子 宮脇正 村上和代 村田聡子 室屋芳乃 本岡眞利子 森川キミエ 森田敦子 安永美紀 山

合計 1,512,266円

活動支援金	2800件	1,413,766円
のぞみ21カンパ	16件	44,000円
雪だるま3号カンパ	15件	54,500円

浦真弓 山口房子 山下明美 山下晶子 山田美佐子 山中陽子 山中良子 山本里美 横井美佐子 四元洋子 四方功一・博子 LIFE&ART青空 東海林由紀 力丸邦子 脇坂幸江 和田祥子 渡邊稲子 渡辺絹子 永尾ゆかり 古賀輝幸 神田有希子 相川靖白 浜千恵子 平笙子 廣松初美 村西美由紀 三野桂子 上村匠子 延壽富美 石本祥二郎 福井初子 内野希和美 丹羽道代 高山知佐子 藤本孝子 山本亮輔 清水悦子 榎崎悦子 蘇木淳子 川尻愛子 山本敬子 坂本ヒロ子 大麻卓子 片山登美子 中川曉夫 Aleksandrove Polina チェルノブイリ友の会 グリーンコープ生活協同組合おおい 柳楽翼 三宅哲子 筑豊互助会 澤田和子 龍神地釜とうふ工房あるん NPO法人じゃがいものうち 測レディスクリニック 亀井廣子 宮西いづみ 桑山道子 チェルノブイリ友の会伏見台 菊池順子

(2008年2月1日〜4月30日までに募金をして下さった方、ならびに「のぞみ21」雑貨、チェルノブイリ支援コーヒー・紅茶の購入を通じて活動を支援して下さいました方です。通信にお名前を紹介することを許可いただいた方のみ掲載しています)

☆「チェルノブイリ通信」が置いてあるところ(順不同)

▽(財)福岡国際交流協会(市役所北別館)▽(財)福岡県国際交流センター▽福岡市NPO・ボランティア交流センターあすみん▽(特活)NGO福岡ネットワーク▽福岡YWCA▽KALASH(福岡県)(中間店・小倉店)▽(財)北九州国際交流協会▽北九州市市民活動サポートセンター▽国立長崎原爆死没者追悼平和祈念館▽日田市人権情報センター▽ほっとはうす(熊本県水俣市)▽あるがまま舎(大分県玖珠郡)▽(特活)関西国際交流団体協議会▽(特活)名古屋NGOセンター▽キープ自然学校(山梨県北杜市)▽国際協力プラザ(東京都文京区)▽ベラルーシの台所(東京都港区)通信を設置して下さるところを随時募集中!事務局までご連絡ください。

皆さんからのメッセージ(一部抜粋)

●みんなの愛が世界中に広がりますように!●ブルサール計画を何とか止めないと...と思っています。●一人でも多くの子供も健康をとり戻せますように祈るばかりです。●通信を届けてくださり、こちらも日々の励みとなっております。●いつか家族で行く時はみんな病気が治つてますように!●20年後、30年後にも影響があるんですね。がんばってください。●大好きなコーヒーでささやかな支援が出来ること、うれしです。●継続し、拡大していく皆様の活動に敬意を表します。これからもよろしくお願いします。●早く平和で核のない世界がきますように。●自分の健康に感謝です。チェルノブイリの人達の健康が心配です。少しでも支援のささえになればいいと思います。●わずかですが、他のみなさまの志に加えてください。●技師のみなさまありがとうございます。●チェルノブイリのことを、いつまでも忘れずに暮らしています。●これからが本番。大変ですが頑張ってください。●美味しいコーヒーありがとうございます。●みなさんの幸せを遠くからですが祈っています。●チェルノブイリのことを忘れないように募金を続けていきます。●地道な真心ある支援活動を、微力ながら応援しています。●広島長崎の例では被爆後数年を経るに従いガンの発生が増え恐ろしいことです。講談「チェルノブイリの祈り」今後も語り続けます。●現地に赴かれる方々、大変ですがよろしく願います。●世界中が喜びと希望であふれていますように。●平和で安心、安全な世界になりますように!●私に心の贈りものをもたらした夢を見ました。●先日購入したのぞみ21の通学3点セットは、とても丁寧に作られていて子どもも私もとても気に入っています。●のぞみ21の心のもった人形がかわいいです。

編集後記 今号より編集を担当することになりました。これまでの編集スタイルを伝承しつつ、新しいことも取り入れていきたいと思えます。その一つとして会員紹介ページを作りました。活動や通信へのご意見やご質問、ご感想などぜひお寄せください。次号もお楽しみに!

(寺嶋悠/河上雅夫)